

## 令和8年度 第1回養父市立図書館協議会 議事録

- 1 開催日時 令和8年5月20日（水） 9時30分～12時
- 2 会場 やぶ市民交流広場 大会議室
- 3 出席者 武田俊彦、松岡弓果、池田ビルギット、大野はな恵、衣川益子、  
木村麻紀、土居一雄、松元伸介、守本加代子、安本靖史  
事務局4名 … （本館）藤本、白岩、西谷、（大屋分館）千葉
- 4 内 容 \*司会進行 … 事務局（白岩）
  - (1) 開会
  - (2) あいさつ  
藤本館長 … 図書館の現状についての情報共有や、「基本的運営方針」を策定する  
に至った経緯についての説明を交えながら挨拶。
  - (3) 自己紹介
  - (4) 会長・副会長の選出  
会長…武田俊彦委員 副会長…松岡弓果委員
  - (5) 報告事項
    - 図書館協議会の趣旨等について
    - 令和7年度事業報告及び令和8年度事業計画について
  - (6) 協議事項
    - 図書館の基本的運営方針の策定について※図書館の基本的運営方針の策定について事務局から説明の後、以下、4つの論点  
で協議を行う

### ①集う

やぶ市民交流広場への来館者は多いものの、図書館の利用者数はそれに比べて少ない。ホールや公民館事業を目的とした来館者を図書館の利用者につなげるにはどのような工夫（仕掛け）が考えられるだろうか。

<出された主な意見>

- ・養父市内飲食店がテレビ放送され、行列ができるほど人気となっている。やはりメディアへの露出は効果的である。テレビ局は難しくてもふれあいトピックスなどへの取材依頼を積極的に行うのはどうか。
- ・Y Bファブのホールイベント後に図書を借りても、来館者にとっては返却がネックになっているのではないか。自宅からの最寄り図書館各分館のどこでも返却できることを知らない市民も多いかもしれないので、周知に力を入れることで鑑賞のついでに本を借りることへのハードルも下がるのではないか。
- ・先日、分館に図書を借りに行ったがカウンターに誰もおられず図書のことについて

聞けなかった。司書資格を有する職員を各分館に一人ずつ確保できると理想的だが、せめて一人だけでも職員がカウンターに常駐してほしい。

- ・「多可町立図書館だより」では図書館スタッフのおすすめ本を紹介するコーナーが設けられている。養父市でも“公民館職員のおすすめ図書”のような展示をするなど図書館側から発信していくのはどうか。
- ・現時点で図書カードの更新率はどれくらいなのか。PRは行っているか。  
養父市では養父市立図書館が新設された2021年9月から図書カードに5年の有効期限を設定することにした。したがって、2021年9月以前に利用登録をした利用者のカードの有効期限が2026年9月に一斉に切れる予定となっており、今後カードの更新についてさらに周知を図っていきたい。
- ・高校3年生の息子曰く、「図書館を友達との待ち合わせ場所や勉強をする場所として使用することはあっても本を借りたことはない」。その理由として、今の時代、大概の調べ物はインターネットで事足りるからだと言っていた。
- ・現代の若者に寄り添った広報にシフトしていくべきだと思う。月並みなアイデアだとは思いますが、やはりSNSの活用に力を入れるべきだ。
- ・SNSでの発信について話があったが昨今「SNS疲れ」という言葉も聞くので、SNSの使いどころは慎重に考える必要があるのではないか。どの層にどんな内容を届ける場とするのか絞り込んでから発信することが重要だと考える。
- ・SNSにおいて図書館の情報だけが発信される場所を設けてほしい。自分が求めている情報以外が溢れているとノイズになりどうしても探すのが億劫になる。
- ・ホールの来客者から図書館の利用者につなげるためには、動線の工夫が必要になると思う。ホールイベントの際に配布するパンフレットに、イベント内容の関連本を紹介したチラシを挟み込むのはどうだろうか。
- ・飲食店のInstagramアカウントでよく取り入れられている営業日カレンダーを参考に、やぶ市民交流広場のアカウントでも休館日等を載せた“図書館カレンダー”を投稿してほしい。
- ・ホールイベントの前に図書館で関連図書の特集を組んで写真等で広報することで、イベントを鑑賞する前に予習として図書を活用する利用者が出てくるかもしれない。

## ②読む

来年度（令和9年度）から図書館整備のための予算が大幅に削減される見通しである。限られたわずかな財源で効果的に図書整備に取り組むにはどのような手立てがあるだろうか。また、財源のさらなる確保に向けてどのような打ち出しが考えられるか。

<出された主な意見>

- ・利用者が求める資料が市内の図書館にない場合、少しでも提供率を上げられるよ

うに図書館以外の施設にある資料を把握しておくのはどうか。

- ・ レファレンスサービスや相互貸借など、あまり知られていない便利なサービスを浸透させることで、あまり費用をかけずに利用率をあげられるのではないか。
- ・ 広報の一例として、市広報に「こんなレファレンス、ありました」というようなコーナーを設けるのはどうか。市民にとって身近な存在である広報誌で取り上げることでレファレンスサービスへの心理的ハードルが下がると思う。
- ・ 今後の財源確保について、クラウドファンディングやふるさと納税も視野に入れるのはどうか。
- ・ 企業に依頼し寄付金を受け取るお礼に企業の宣伝を行うという方法をとっている市もあるので、参考に見てみたいと思う。

### ③学ぶ

生涯学習の拠点として図書館が提供できる学習の機会とはどのようなものが挙げられるか。図書館という場所や機能を生かして幅広い世代に学ぶ機会を提供するために求められるサービスとはどのようなものか。

<出された主な意見>

- ・ 高校生に図書館利用に付随するメリットを感じさせる必要がある。例えば、読書が苦手な学生に向けて短めの文章量で構成されており、かつ読書感想文にお勧めできる本を1か所にまとめて並べると貸出意欲を刺激させられると思う。
- ・ 高校生の興味は八鹿夏祭りやナツフェスに注がれていることが多い。「八鹿の夏祭りを復興させたい」と考えている学生のために関連する郷土資料等について展示するのはどうか。
- ・ 市民が何を学びたいか、市民の“知りたい”気持ちに応えるために図書館側は市民のニーズを的確に把握しておく必要がある。
- ・ 図書館で利用数が多いジャンルはすなわちニーズであると考ええると、健康や暮らし方について興味を持つ養父市民が多いことが分かるので、意識して集めてみるのもいいと思う。
- ・ （移住者目線から）他地域から養父市に移住する人にとって、養父市の昔を知ることができる郷土資料は興味深いものなのでもっと押し出してほしい。市が取り組んでいる「移住定住促進」ともリンクでき、養父市立図書館の特色づくりも叶えられると思う。
- ・ 空間に仕切りを設けおしゃべりしながら学べるスペースを明確に作ってみるのはどうか。
- ・ 複数人である一冊の共通した本を読み、感想や考察を語らう機会を図書館で設けてほしい。（ブックトーク）複本をしないという養父市立図書館の性質上、紙媒体の図書を用いた企画の実現は難しいだろうが、電子図書を導入するのであれば可

能になるので検討してほしい。

- これまでからヤングアダルトコーナーの充実が話題として上っているが、大人である職員ではなく、ヤングアダルト図書を届けたいターゲットである中高生に「同世代におすすめしたい本」として展示に使う本を選んでもらうのはどうか。本を選書したり紹介POPを作ったり、実際に図書館活動に参加することで自分ごととして捉えやすくなり、周りの友達に宣伝してもらうことで若い世代が図書館を知るためのきっかけを与えられるという効果が期待できるのではないか。学生に作ってもらった展示をSNSに投稿することで、宣伝としても活用できる。

#### ④つながる

社会的処方推進の観点から、図書館を通じて市民の「つながり」が生み出せるような取組はどのように構築していけばよいか。⇔「学びの場づくり」との関連

＜出された主な意見＞

- 他所で知人が読書会を開いているが、本がたくさん集まっている図書館でこそ読書会を定期的を開催するべきだと思う。
- 公民館講座やチャレンジキッズ事業を目的に来館する人たちに向けて内容に沿った図書を展示すると、貸出実績（図書館利用）につながれるのではないか。
- 高校生等の若者を対象とした取り組みももちろん必要だが、高齢者のためのサービスも充実させてほしい。図書館に行きたくても何らかの事情を抱え来館が難しい人に向けたつながりをもたらし工夫が必要だ。例えば、夏休みに市内4館をめぐるバスツアーを企画するのはどうか。移動手段が限られており普段利用できない（していない）図書館がある人にとって地域ごとに異なる図書館の魅力を感じられる機会となったり、ツアー参加者の間で親睦を深めたりできるのではないか。
- 図書館や本を軸に市民につながりを与えるにはやはりブックトークが妥当であるように思われるが、難しいのであれば持ち寄った本が異なる本でも開催できる「ビブリオバトル」を勧めたい。ファシリテーターは学生に担ってもらうこともできるのではないか。
- 図書館を“拠点”ではなく“起点”として捉え、さまざまな面で地域につながりを与えてみるのはどうだろうか。社会的処方の観点から認知症をキーワードに例を挙げると、図書館で認知症をテーマとした展示をつくる際に認知症カフェへの案内を展示に施すことで、図書館をきっかけにカフェの存在を知ることができる。カフェの存在を知り興味を持った人たちが集い、新たなつながりが生まれることは、図書館を起点として新たな拠点を提供することに結び付くのではないかと考える。

#### (7) 閉会

次の開催時期についての確認等